

「吹田市立博物館の春季特別展」参観記

二十回生 中野直衛
浅野倉平

はじめに

ご承知の通り、平成二十五年春に千里山入居九〇年を記念した「千里山今昔展」が地域の盛り上がり協力のもと、地元地域団体とちさと図書館の共催で実現をみました。そして、この度、待望の市立博物館による本格的な千里山展が「田園都市千里山」大正時代の理想郷」と銘打ち、平成二十八年四月二十三日～六月五日の期間で開催されました。

おりしも千里山では、UR千里山団地の建替を機に、駅前東側の道路、阪急跨線橋、コミュニティセンター、交通広場などの公共施設の相次ぐ竣工を迎えており、ちさとの歩みを改めて回顧する本展は、この新しい街の顔の登場とあいまって真にタイムリーな企画でありました。五月半ば二〇回生同期三人（荒木弘進・中野直衛・浅野倉平）は、連れ立って紫金山公園は

博物館三階の会場に、何か懐かしさとワクワク感を抱きながら入場しました。その展示場は、地域をはじめ内外からの文献、文書、図面、写真など多面的な資料でうめつくされ、同館の周到な準備と熱意が込められて集められたことを、展示そのものが如実に物語っているようでした。

―展示構成―
展示構成は大きく三区分にまとめられています。

一、「田園都市の成立」では、英国は産業革命を先導しましたが、それは都市の過密と劣悪な生活環境などを生み出し、これを憂いた社会改良家E・ハワードは都市の社会的経済的な利点と農村の優れた生活環境の融合を、都市と農村の結婚の喩えで理論化し、「明日——真の改良にいたる平和な道」(Tomorrow: A Peaceful Path to Real Reform) (一八九八)、改訂版「明日の田園都市」(Garden Cities of Tomorrow) (一九〇二)を世に問いました。そして、その実践として協働者と共にレッチワースなどの田園都市(職・住・

田園文化の自己完結)を実現させました。

二、「ひろがる田園都市の思想」では、近代大阪は工業化の進展のなかで、英国の都市にちなみ「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになりましたが、同時に、大気汚染、人口増加、住宅難等の都市問題を抱えました。政府は都市の住宅難などの対応として都市計画法、市街地建築物法、不良住宅地区改良法、住宅組合法などの法整備に乗り出しました。

一方、建築界は、住宅改良会、日本建築協会、都市研究会などで、住宅難緩和、住宅改良、生活改善を目指し、田園都市理論への志向の中で、鉄道会社等民間主導での風景絶景・理想郷をうたう「郊外住宅地」の開発が進みました。

三、「田園都市 千里山」では、千里山住宅地は、都市サラリーマンの住宅難緩和のために、千里村大字佐井寺の一角、桃・蜜柑などの果樹園、松林に都市研究会(会長 後藤新平)の設計のもとに郊外生活の理想郷として喧伝され、大阪住宅経営株式会社(大正九〇昭和三年 社長山岡

順太郎)によって造成されたものでありました。街の骨格はレッチワースをモデルとし、北大阪電鉄(大正七〇一二年)によって敷設された千里山駅(大正一〇年 梅田～千里山間開通)から商店街を抜け、噴水ロータリーで放射状に分かれた道路沿いに住居(改良洋式・日本式)が並び坂のある洋風の街を目指しました。施設としては下水道、電気、ガス、水源池が整備され、交流、教育等の場として倶楽部(現千里山会館)、テニスコート、噴水(五箇所・現存二箇所)、公衆浴場、幼稚園、小学校(当初は関大内)、商店等も備えられました。入居は大正十二年から始まりました。そして「千里山住宅地は田園都市なのか」との問かけへのまとめとして、千里山は英国の田園都市構想を取り入れながらも、大阪への通勤圏として、いわば、日本型田園都市↓田園郊外↓田園のひろがる「郊外住宅地」として、造成されたものと位置付けられてきました。

―展示内容―

次に具体的な展示内容に移りますと、田園都市論を提唱する一八九八年発行のE・ハワード著「明日―真の改革にいたる平和な道」、同改訂版「明日の田園都市」(一九〇二年)の原著とその図面類の展示は圧巻でした。田園都市論の実践としてのロンドン近郊のレッチワースのマスタープランも示されました。原著の題名中に「Peaceful path」と明示されていたことは印象的で、社会改良家の心意気に打たれる思いでした。

その他の展示内容のあらましは、大阪の経済発展資料、他地域の田園都市資料、電鉄資料、千里山住宅地資料(平面図・住宅設計図・写真・噴水整備パース・調度品など)、関大千里山キャンパス資料、千里山花壇資料、桜ヶ丘改造住宅博覧会資料などいずれも往時を髣髴とさせるものばかりでした。千里山は、住宅地と共に鉄軌道・駅舎、関西大学、千里山花壇(現関大一高・一中)の整備が相関連しつつ、同時並行的に進められた特徴的な姿が総合的に展示されました。興味をそそられたものに、大阪住宅経営(株)などの当時の住宅地平面図等六く七種類の原図

が勢揃いし、造成、分譲、住宅、施設状況などの相互の推移を見比べる面白さもありました。又、池田の室町、豊中の岡町、箕面の桜井・桜ヶ丘等沿線郊外住宅地の歩みを合わせて辿ることができました。その上、珍しい展示がありました。それは、改造住宅博覧会会場模型です。同博覧会は大正十一年九月二十一日(十一月二十六日)の間に、日本建築協会主催(会頭 後藤新平・会長 片岡安)で住宅の洋風化による生活改善を推進する目的で、箕面桜ヶ丘で開催されたものです。入場者は七万人を越え、会場には噴水まであったようです。同上協会をはじめ建築業者、設計事務所などにより住宅二十五棟が展示されました。住宅経営会社は、勤労者向けの和洋折衷住宅を出展する他、懸賞設計入賞図案による同上協会の展示住宅八棟の施行にもかかわらず、これらは千里山住宅地の勤労者向け改良住宅の建築普及に生かされました。同経営会社の貸付住宅(改良式・二戸連式)の家賃表も展示され、公的融資の活用も含め、住宅難対策に寄与した同社の社会的性格を表しています。又、会場一隅の参考図書コーナーで、同上経営会

社の事業報告書に目が留まりました。高知大林区署からの材木、原産地からの樹木購入の件です。材木は建築資材用です。樹木は庭園樹、街路樹、生垣用です。上記住宅地平面図上に記載された「植樹栽培地」に正しく符合するものでした。まちのみどりの協創です。さらに、当千里山会員の三十二回生で漫画家田代寛作の「SENRIYAMA on MY MIND about 1955」は、会場をほのぼのとしてくれました。

なお、この度の展示図録は、関連年表も含めて同博物館初の試みとなる日英両語を併用して発行されました。

―関連イベントなど―

これらの展示に加えて、期間中には多面的な切り口の興味あふれる講演会が開催され、当千里山会会員二十九回生の堀田暁生さんも「千里山住宅の歴史」に付いて講演されました。担当学芸員による展示解説、館長トーク、市民フォーラム、古写真と現況を較べる出前博物館の現地見学会など目を離せない多彩なイベントが連続的に催されました。これらにも自治会関係、

千二小卒業生、千里山会会員各位が講演会、フォーラム、見学会、情報提供などを通じて積極的に参画され「ちさと」を熱く発信して下さいました。

―おわりに―

本展は、このように単なる千里山展に留まらずに、英国の田園都市構想の原点からスタートし、千里山住宅地が広く検証考察されたことに特徴があり、それがまた本展を意義深くしていると思われました。

ところで、ケース内最大の展示品は、他でもない第一噴水に同上経営会社が残した千里山開発記念碑の拓本です。現地の記念碑は時代の変遷のなかで、当該住宅地に続く周辺開発として、昭和三十一年の西日本初の公団千里山団地、昭和三十七年の千里ニュータウンの登場、そして昭和四十五年の日本万博の開催をみつめてきました。

千里山は正に地域発展におけるプレタウンの役割を担ってきたのです。そればかりか、大平正芳総理の政策研究会にあつては、国家論に

平成28年度(2016年度)春季特別展

“田園都市”千里山

～大正時代の理想郷～

Senriyama "Garden City" ~Utopia in the Taishō Era~

平成28年(2016年) **4月23日(土)～6月5日(日)**

■会場 / 吹田市立博物館 3階 特別展示室

■開館時間 / 午前9時30分～午後5時15分

■休館日 / 月曜日と5月6日(金)

■観覧料 / 大人..... 200円(160円)

高校・大学生..... 100円(80円)

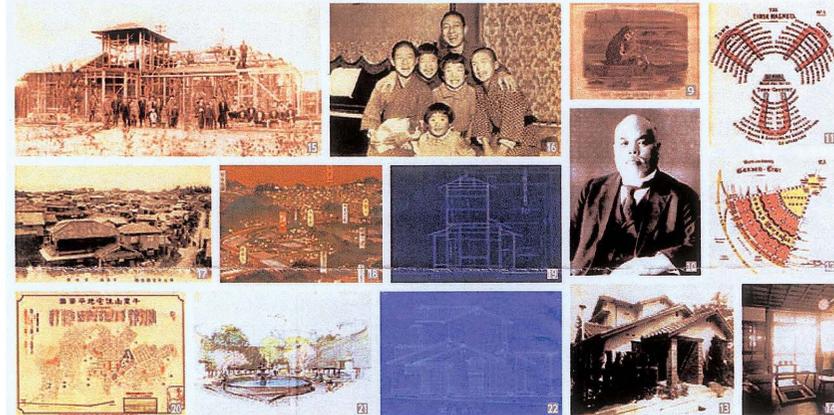
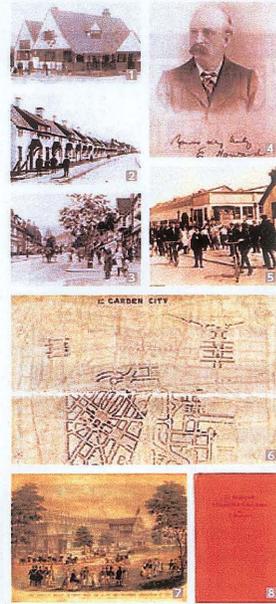
小中学生..... 50円(40円)

※()内は20名以上の団体割引料金。

※市内在住の65歳以上の方は100円。

※市内の小・中学生は「ぐるっとすいた」カードを持参するか、土曜日に来館する場合は無料。

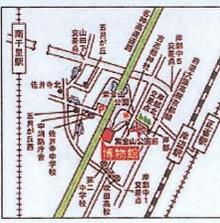
※4月23日(土)(会期初日)と5月15日(日)(国際博物館の日)は観覧無料。



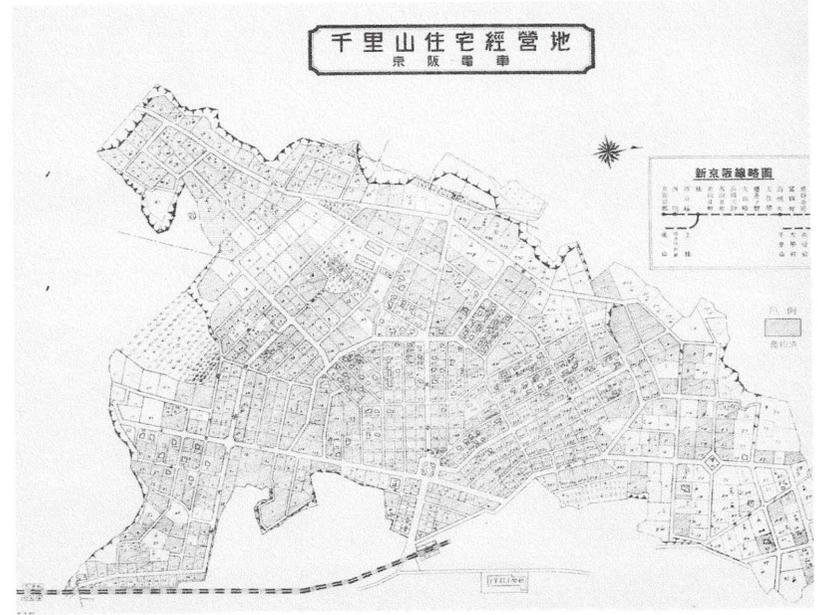
①レッチワースビル(出陣)の建築(www.gardencitycollection.com) ②レッチワース(労働者の住居)(www.gardencitycollection.com) ③レッチワース(www.gardencitycollection.com) ④E. ハワード(大塚大学博物館蔵) ⑤レッチワース(www.gardencitycollection.com) ⑥レッチワース(www.gardencitycollection.com) ⑦花園大正時代(www.gardencitycollection.com) ⑧第一回「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑨「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑩「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑪「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑫「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑬「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑭「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑮「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑯「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑰「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑱「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑲「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com) ⑳「ふるさと」展(www.gardencitycollection.com)

吹田市立博物館 〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号
SUITA CITY MUSEUM <http://www.suita.ed.jp/hak/>
 TEL06-6338-5500 FAX06-6338-9886

■交通案内 ●JR岸辺駅下車北口より徒歩20分。●JR吹田駅北口-阪急吹田駅から千里中央ゆきバス4系統「無金山公園前」下車徒歩4分。五月が丘ゆきバス(循環)「五月が丘」下車徒歩7分。●JR吹田駅-阪急吹田駅から桃山台駅ゆきバス2、3系統「在井寺北」下車徒歩10分。千里中央ゆきバス12系統「岸部」下車徒歩10分。●阪急南千里駅からJR吹田ゆきバス2、3系統「在井寺北」下車徒歩10分。●車でお越しの際は五月が丘方面からお入りください。(吉志部神社側から車は進入できません。)



昇華された「田園都市国家構想」が、座長の千里人 故梅棹忠夫民博館長のもとで提言されているのです。千里山自治会の「千里山七十年のあゆみ」の巻頭を飾る「噴水に光と風の集れり」俳人 故大橋敦子作は、噴水のみどりの中で今に含意を湛えていると思わされます。先人によって育まれ伝えられ、千里山をあとにされた方々の抱かれる熱き望郷の念にも連なる千里山らしさを、如何に次世代に継承してゆくかを改めて迫られる特別展であったかと思わされます。開催関係各位のご労苦に敬意と感謝の念をいただきます。足らざる參觀報告に代えさせていただきます。



—千里山まちづくり協議会提供—